様式第２号（第８条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和５年度第３回第２０採択地区教科用図書採択地区協議会
開催日時	令和５年７月１１日（火） 午前９時００分から午前１１時００分まで
開催場所	加須市役所　４階　全員協議会室
議長氏名	小野田　誠
出席委員	秋本　文子　　髙瀬　賢一　　駒澤　幸浩 遠藤　康江　　松永　修
欠席委員	なし
会議次第	１　開　　会 ２　あいさつ ３　議事 （１）協議 （２）選定の方法について （３）選定 （４）選定結果の報告について （５）今後の予定について ４　閉　　会
会議資料の名称	【次第】 【選定方法フローチャート】 【令和２年度使用小学校教科用図書採択結果】 【資料１】２０採択地区教科用図書研究調査報告書 【資料２】埼玉県教育委員会調査資料 【資料３】各小学校、保護者研究調査結果報告書
会議の公開又は非公開の別	一部非公開
非公開の理由	静謐な調査研究環境及び採択環境の確保のため
傍聴者の数	８人
事務局職員職・氏名	加須市教育委員会学校教育課長　　清水　博文 羽生市教育委員会学校教育課長　　蓮見　典昭 加須市教育委員会学校教育課指導主事　辻本　康平 羽生市教育委員会学校教育課指導主事　辻　佳孝
会議録の作成方法	□　要点記録 ■　全文記録
その他必要な事項	

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
清水学校教育課長	【開会】
小野田第２０採択地区教科用図書採択地区協議会長	【あいさつ】 あいさつ　　第２０採択地区教科用図書採択地区協議会長
	【議事】 本日の資料確認 ①　次第 ②　選定方法フローチャート ③　令和２年度使用小学校用教科用図書採択結果 ④　第２０採択地区教科用図書研究調査報告書 ⑤　埼玉県教育委員会調査資料 ⑥　各小学校、保護者研究調査結果報告書　　の６点 協議に入る。協議の進行については、第２０採択地区教科用図書採択地区協議会規約第９条第２項により、第２０採択地区教科用図書採択地区協議会　会長　の　小野田　教育長　にお願いする。
小野田第２０採択地区教科用図書採択地区協議会長	はじめに、本協議会の公開についてお諮りする。採択地区協議会規約第１０条により、この会の協議の部分は公開とする。後半の選定については公正・公平かつ本協議会の独自性を維持するため、非公開としてよろしいか。
各委員	（賛成の声）
小野田会長	賛成多数により、本協議会の協議の部分を公開に、選定の部分を非公開とする。傍聴人がいれば、中に案内するよう願う。
	（傍聴人　８人　着席）
小野田会長	【協議】 それでは協議に入る。
小野田会長	国語について、意見はあるか。
遠藤委員	教育出版がいいと思った。全学年で分冊になっていて、教科書が軽量化されており、付録のページも充実していると感じた。図書の紹介が多く、読書へのつながりがもてるのではないかと思った。読書単元が設定されており、興味が湧くように工夫されていた。全体的にどの出版社も内容が濃く、名作から新しいものまで掲載されており、盛りだくさんの内容なので、児童一人一人が必ずどこかの場面で興味がもてるだろうと感じた。
松永委員	国語科は教材を学ぶものではなく、教材を通して生きてはたらく言語能力を育てる教科であるという特性がある。ポイントとしては、子供たちにとって教材が魅力的である、学習の効果が上がる教材である、設定されている教育活動が魅力的で、なおかつ、確かな言語能力を身

	に付けられるものであるかというところが視点になってくる。また、それが系統的に設定されているかということが重要である。その点と、前回出された調査報告書と併せながら、私なりに再度詳細に精査してみた。最終的には教師がどう指導するかに関わってくるが、どの教科書も言語能力が高まることが感じられるとともに、それが明確になっていることは確かである。生きて働く言語能力に発展するという意味で、教材や活動を見ていった場合には光村図書、教育出版は、教師の現状も踏まえると使いやすい、効果が上がるということを感じた。いずれにしても、どれも優れた教科書であることは間違いない。
秋本委員	どの教科書もしっかりと作り込んでいて、使い勝手はよさそうであるし、興味がもてる内容であると感じた。その中で現場の声等を聞くと、肯定的な意見が多く、今使っている光村図書が使い勝手がよいのではないか。ＰＴＡの意見を見ると、東京書籍が肯定的意見が多いが、子供たちの実態に合わせると、考えるところがあると感じた。
駒澤委員	私は保護者でもあるので、ＰＴＡの意見を尊重したいと考えているが、私の意見とＰＴＡの意見がどれだけ一致するかをみた。私はＰＴＡの意見が多かった東京書籍がよいと思った。教科書を生かしていく上で何が一番大事かを考えると、先生方、プロの視点で見たときにどのような指導ができるのかということが重要だと感じた。国語に限らず、他の教科においても自分の意見とＰＴＡの意見と先生方の意見をうまくバランスをとる必要があると思っている。国語のすべての出版社を見たところ、スタートがゆったりと始まっていて、終わりの方になるとＳＮＳにも触れられていて、現代に合った内容になっていると思った。ＱＲコードの内容がどこまで深掘りされているかが重要だと思うが、学力が羽生でも加須でも課題となっており、学ぶ子はどんどん学ぶが、入り口の低さはすべてにおいて大事だと思っている。そのような意味でデジタルを生かして深掘りをするようなコンテンツがあったり、教科書にはなるべく多くの人が入りやすいような入口を設けたりすることが大切だという視点で見た。個人的には東京書籍がいいと思ったが、プロの視点を大事にしていきたいと感じている。
小野田会長	書写について、意見はあるか。
秋本委員	書写については、現場もＰＴＡも教育出版ということで、使いやすさを感じているというデータがある。教育出版は、学習のステップが７段階あり、「考えよう」で児童に考えさせるなど、書き方といった書写ならではの学びが身に付くような内容だと思う。
遠藤委員	どの出版社を比べても、学ぶ内容や注意するところ、水書（水で書く習字）の掲載等それほど差はないと感じた。その中でも教育出版が教科書の表紙や中の絵が比較的新しく、今の子供たちの興味が湧くよ

	うな内容になっていると思った。習字に対するわくわく感みたいなものを教科書から感じることができた。
松永委員	どの出版社も子供が使いやすく、教師が指導しやすいかたちでできていると感じた。知識、技能を身に付けることが書写のねらいでもあるが、知識、技能が身に付いた上で、それが日常生活で使えるというのが必要な教育であり、生きて働く力になっていく。そのような視点で、知識、技能を他の教科あるいは日常生活の中でどのように発展させていくかという視点で見た。そして、その視点で私なりに判断をした。
小野田会長	私も書写に関しては非常に悩んだ。一時間一時間のページとすると意外に情報量が少なく、シンプルな方が子供たちには使いやすいのではないかと思った。そのような視点で見ると、どの出版社についてもよくできている、逆にシンプルな情報の方が子供たちには伝わりやすいのではないかと思って悩んでいる。
小野田会長	社会について、地図も含めて意見はあるか。
遠藤委員	日本文教出版がいいと思った。どの学年も１冊なので、少し重たいのではないかと感じた。内容ではＳＤＧｓのシールが付録としてあり、子供たちの意識付けになるように活用できるので有効ではないかと感じた。また、情報量が多いと感じた。どの教科書も、社会で働く人や有名な人が掲載されていて、社会の一員であることを子供たちは学べるのではないかと感じた。いろいろな人が社会を支えているということも確認でき、その中に子供たちも入るということが伝わる内容になっていた。地図帳は、帝国書院がとても見やすいと感じた。標高差で色が変わっていて見やすく、「地図マスターへの道」というコーナーがあり楽しく学べ、江戸時代の地図も掲載されており、興味が湧く内容になっていた。どの地図帳もわくわく感があり、図鑑的な要素も感じられ、たくさんのイラストやデータが掲載されているので、楽しめる内容になっていると感じた。
松永委員	わくわくしながら読み進められる、自分で学習できるような内容になっているということを感じた。教師も非常に指導しやすい、教科書を中心に指導ができるし、資料も豊富で優れていると思う。教科書の中に、学び方を示す「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」があり、主体的に学習ができるかたちになっていた。資料が魅力的であるか、主体的に学ぶことができるか、興味をもって学習できるポイントがあるかという視点で見た。
秋本委員	子供たちの思考力、判断力、社会的事象の見方、考え方を促すような設定になっていると思った。その中でも先ほど松永委員がおっしゃったように、東京書籍の「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」を

	色分けして、学習活動が明確化できるようになっているところが特徴的でよかったと思った。地図帳については、使いやすい、わかりやすいものということで、帝国書院が使いやすいのではないかと思った。いずれにしても、どの出版社もしっかり書き込んでおり、甲乙つけがたい内容であった。
小野田会長	算数について、意見はあるか。
遠藤委員	２社で迷っている。学校図書と啓林館で、学校図書は考え方モンスターというキャラクターが６年間通して掲載されており、統一感がある。６年生の最後に「中学生への架け橋」という別冊があり、上の学年にいくための学習のつながりが感じられた。啓林館は、上の学年にいくためのつなぎの学びがわかりやすく掲載されていた。６年生の最後に「未来への扉」があり、様々な職業の方に「今の仕事で算数を使うことがありますか」という問いがあり、算数が苦手だと思う子にも算数は必要だと感じられる気付きになっていると思った。他の出版社の教科書も算数に興味がもてるように、ゲーム的な記載を採用したり、楽しいイラストを使用したりしているので、見応えのある教科書だった。
松永委員	算数科は、身に付けるべき知識、技能が明確なので、その点にポイントを置くなら評価しやすい教科である。それが身に付いているかが明らかになり、次の学習にも生かすことができる。知識、技能を確かに身に付けるということにおいては、どの教科書も見事にできあがっていると感じた。差異があるとするならば、知識、技能を導いていく思考、どのように思考させていくか、どのような展開をしていくかというところであった。その点を重視しながら見た。併せて、学校や日常生活との関連を重視して、問題解決の内容が身近で考えやすくなっている、これからの生活に生かすことができる内容になっているかも、ひとつのポイントである。そういう視点で見た場合、私は東京書籍の内容がわかりやすいと思った。いずれにしても、教師がどう扱うかによって差が出てくるので、私がもし教師ならどの教科書でも工夫してできると感じた。
秋本委員	どの出版社もすばらしい特徴があり、例えば、１年生のはじめの学習が別冊になっていたり、左利きにも対応していたり、中学校へのつながりがあったりと様々な工夫をしていると感じた。その中でも２０採択地区の子供たちの実態に合うとすると、総括のところにもあるように、各単元が無理なくスモールステップで進められるような構成とうのを重視したいと思う。東京書籍はそのようになっているので、実態に合うということも考慮しなければならないと思っている。
小野田会長	小学校の算数というのが、中学校の数学の入り口であるということ

	を考えると、スモールステップで確実に定着を図れるということが一番難しいのではないかと思っている。児童が考えることをどの出版社も重視しているが、この考え方がとても大切で、答えを導くというより、概念を押さえてあるかどうかが、学校の教室で行う授業では最も大切である。たし算やかけ算ができることも大切だが、数の概念をしっかり押さえていることが、中学校、高校でも大切である。小学校の子供たちの思考になる必要があると感じた。教科書を復習に使って自分で学習できるというのもスモールステップのひとつである。
小野田会長	理科について、意見はあるか。
遠藤委員	どの教科書も振り返りがあり、学んだことを確実に身に付けられるように工夫されている。どの教科書もデジタルコンテンツが充実している。大日本教科書は、他教科のつながりや下学年で学習したことの学びのつながりの記載があり、わかりやすい。ページいっぱいに写真が掲載されているところもある。
秋本委員	甲乙つけがたい内容ばかりであった。理科離れと言われているが、そのような観点から、子供たちが理科から学ぶということを考えると、教師の使いやすさというのが必要になると判断した。
松永委員	理科は小学校の段階で知識、技能を身に付けることが大切であるが、理科好きの子供を育てることも大切だと思っている。この教科書を使って、実験したり観察したりして学んでいくことによって、理科好きになるということを、教科書という観点からそれができるかという視点で見た。どの教科書も子供たちにとって非常に楽しいものになっていると感じた。見ていて実験がしたくなる、観察がしたくなるという意欲を湧かせるものになっている。非常に悩んでいるが、最終的に細かいチェックを入れながら判断していきたい。
小野田会長	理科という教科の特性から言うと、私は予習する教科ではないと思っている。復習する教科だと思っている。理科の授業の組み立てを見た時に、わくわくするような導入で観察や実験をして、感動を持って帰り、もう一度、今日の１時間やこの単元を振り返って見返すことができる時に、子供が復習で使えるものが必要だと思う。子供が考える場面が多少教科書会社によって違うので、どの思考パターンが子供たちに合っているか、算数同様に子供たちの今の思考パターンと教科書の配列、進め方がどのようになっているかという点において、かなり難しい選定になる。
駒澤委員	全ての出版社に言えるのが、危険生物の画像が載っていることであり、現代に合っていると思う。実験とは違い、必ず知っておかなければならないことであり、網羅されていることはすごくいいことであると思った。実験に関して、先走って答え等が書いてあるとわくわく感

	がなくなるということを聞いたことがあり、そのバランスが難しいと思いながら見ていた。ＰＴＡや先生方の意見と私の意見が一致したので、ここがいいというのが個人的にはあるが、各自捉え方によって答えが違ってくると思うが、実験の載せ方、見せ方がポイントになるだろうと感じている。
小野田会長	生活について、意見はあるか。
遠藤委員	どの教科書もよくできている。その中でも光村図書がいいと思った。人気絵本作家のイラストを使って、子供たちが興味をもちやすい教科書になっており、一緒に考えられるように工夫されていると思った。「こんなこともあるかも」というコーナーに、気付きや反応に共感できるのではないかと感じた。どの教科書も教えるという感じではなく、自主的に考える力を育てる教科書になっていることを感じた。
松永委員	生活科は教科書を使って、机上で学習するという性質のものではなく、それをもとに具体的な生活や体験をする、そこにひとつのポイントをもったり、意欲をもったりして、まとめの時に使えるようにするべきものであると捉えている。そのような視点からすると、子供たちの実態や地域性なども関わってくるので、それらも踏まえた上で判断したいと考えている。
秋本委員	東京書籍は、イラスト比較ができる構成のページがあり、「みつける」「くらべる」「たとえる」などの気付いたことをもとに、多様な学習活動例が写真や挿絵、吹き出しなどで記載されており、子供が書き込んで使用することもできる。私が担任だったら、子供たちとこのような教科書を使って楽しむことができると考えながら見ていた。安全面、衛生面に関することも、どの出版社も入っているが、使い勝手がいいのは東京書籍ではないかと思いながら見ていた。
小野田会長	音楽について、意見はあるか。
遠藤委員	２社とも授業に活用できるものが多く掲載されており、歌ったり演奏したりすることも、子供たちと楽しく学べるように工夫されていると感じた。教育芸術社は、歌唱教材の選曲がいいと感じ、学習課題がわかりやすく掲載されており、イラストも見やすいと思った。６年生の教材の中で、著作権についても触れている点についてもいいと思った。
駒澤委員	教育芸術社は曲にまつわるエピソードがいろいろなところに書いてあり、興味を引きつけられた。ＱＲコードを読み取ってみると、少し世界が広がる程度の内容だったのが、少し残念であった。デジタルの部分はまだ始まったばかりなので、これから充実してくると思うが、そのあたりの改善はどの出版社も必要だと感じた。楽器の演奏について、例えばリコーダーの指の使い方の掲載の仕方を比較すると、私は

	教育出版の方が一歩リードしていると感じた。どこを重視していくかは検討していきたい。
小野田会長	ＱＲコードの内容の特色が違い、短時間で楽器演奏が入っているものもあるので、自分で学習ができるのではないかと思った。教育出版については、個別最適な学びをサポートするためのＱＲコードの使われ方をしていて、非常に特色があり、それぞれ子供たちにとってどちらの出版社がいいのかは悩んだところである。
小野田会長	図画工作について、意見はあるか。
遠藤委員	２社とも鑑賞教材が様々に掲載されていたので、子供たちが想像力を養うことができるように工夫されていることを感じた。図画工作の本来の学びの楽しみが感じられる教科書だと思った。開隆堂出版はＱＲコード参照が多くてわかりやすく、図画工作のスキルアップができるように手順がわかりやすく示されていた。他の教科とのつながりもわかりやすかった。
秋本委員	開隆堂出版は、作品例の写真が大きくて参考にしやすかったり、見やすいレイアウトになっていたりすることは、子供たちにとっていいと思った。
小野田会長	２社それぞれに特徴があり、開隆堂出版は作者の説明がついており、思考がそちらに向くのではないか、日本文教出版は参考作品のレベルが高いと感じた。
松永委員	２社ともに子供たちにとっても、教師にとっても使いやすい教科書である。材料や用具についても、事前に準備ができるように示してあり、注意喚起すべきものについても示されている。写真や資料が大きく掲載されているので、子供たちにとって、学習の手順がわかり、意欲的に創作活動に取り組むことができる。教師にとっても、スムーズに指導ができるといった点において優れている。一つ一つを比べると、開隆堂出版のつくりの方が教師にとっては使いやすいと感じた。
小野田会長	家庭科について、意見はあるか。
遠藤委員	２社ともに家庭科ならではの生活に密着した内容が学べる工夫があると感じた。東京書籍の「生活を変えるチャンス」は、学習のまとめとなる事例が示されており、学習を振り返るという点で学びの充実が図られると感じた。ＳＤＧｓとの学びの関連付けも掲載されており、わかりやすかった。学んだことが生活に生かせるように工夫されていると感じた。
小野田会長	保健について、意見はあるか。
髙瀬委員	子供の視点から、教員の視点から、自分だったらという３つの視点から見た。子供が教科書を見てわくわくしたり、楽しさを感じたりするという観点、教員は使い勝手や教えやすいという観点、自分だった

	らどの教科書を使いたいかという観点で見た。昔は、この教科書の方が使いやすいというようにはっきりしていたが、今はどの出版社も甲乙つけがたくなってきたので、悩んでいる。保健に関しては、東京書籍が一歩リードしているように感じた。
遠藤委員	どの教科書も保健の学びが様々な角度で掲載されており、ＱＲコードや写真、書き込みのシートが工夫されており、深い学びへ導いてくれると感じた。大修館書店は、写真、イラスト、デジタルコンテンツが充実しており、視覚的に保健に関することを学ぶことができ、理解が深められると感じた。アスリートの話が掲載されており、子供たちは興味が湧くのではないかと感じた。
駒澤委員	ＰＴＡの意見が圧倒的に東京書籍になっており、私も同様だった。教員の評価も高かったので、どの出版社もいいが、東京書籍はバランスがとれていると認識した。
小野田会長	教科書の展示会や委員会への貸出等で保護者は研究され、保護者は東京書籍が見やすい、使いやすいという意見が多かったのは確かである。投票方式ではないが、肯定的に子供にとっていいのではないかということは確かである。
小野田会長	英語について、意見はあるか。
遠藤委員	どの教科書を読んでも楽しく学べる内容になっており、内容的にも充実している。先生方が教えるのに、授業時間内におさまるのかと感じるくらい充実していた。イラストや写真も多く掲載されていたので、子供たちは楽しみながら英語を学べるのではないかと思った。三省堂は全体的にイラストがきれいで、見やすい感じがした。巻末のカードが便利に使えそうで、写真も充実していると感じた。
秋本委員	現場や担当の声を聞くと、東京書籍と教育出版で分かれる。東京書籍は写真や解説などの情報量が多く、指導に生かしやすいという声がある。思考力・判断力・表現力の育成につなげやすい、教科書に書き込める場所が多くあるので、ワークシートとしても活用しやすいというメリットがあり、現場の声としては使いやすいという声があるので、そのあたりが判断材料になる。教育出版も各単元がシンプルな構成となっていたり、話題のスポーツ選手や漫画の写真があったりと、児童にとって身近に英語を感じることができるというメリットがある。使いやすさやいろいろな経験値をさらに生かして、ＰＤＣＡサイクルでやると子供たちが中学校に行ったときもスムーズに学習できると感じた。
松永委員	英語に関しては現場の指導がどのように行われているかを吸い上げながら、２度目の改訂なので、本来的には、細かなあるいは大胆な改訂があってもよかったのではないかと思っている。実態として現場も

	揺れている状態なので、どういう方向が必要なのかが見えてくる段階だと思う。いずれにしても、コミュニケーションを行う目的や場面、状況、相手意識や目的意識がはっきりしていることが会話の大事なところである。日常生活において必要なコミュニケーションであって、今話したい、話すことによって友達と英語でコミュニケーションできるというのが子供たちにとっての学習の魅力だと思うので、それがやりやすい、学習としてまとめやすいものはどれかという視点で見た。どれも甲乙つけがたく、難しい。
小野田会長	道徳について、意見はあるか。
遠藤委員	心の教育である道徳の授業は、心の変化や気付きをいかに目指す方向や正しい方向に向けていくかが大切であると捉えているので、どの教科書も子供たちの心に響く内容になっていると感じ、甲乙つけがたく難しい選択であった。光文書院は、自己評価欄がよかった。心の矢印で自己評価をつけていくというのがわかりやすかった。話し合うということが子供たちにわかりやすく掲載されているので、考えるポイントやタイミング、友達にこのようにすれば自分の気持ちが伝わるような内容が掲載されていてわかりやすいと思った。話の数が多く、学ぶことができる事柄が多様であると感じた。
松永委員	道徳には、道徳的価値を自覚して、それがやがて道徳的実践力に結び付いていくというねらいがある。ある教材で指導すればそれが身に付くものではなく、積み重ねて育成していくという特徴がある。考え、議論する道徳ということで、コミュニケーションをとり、議論しながら道徳的な価値を自覚していくという視点で、議論できる教材になっているか、どの場面で議論させるか、どの場面で葛藤させるかということをもとに判断した。
秋本委員	道徳の教科書いずれも甲乙つけがたい内容で、ＰＴＡの回答では意見が分かれていた。捉え方がいろいろと違うということを感じた。教科書を使いながら子供たちを揺さぶり、教師がそれをフル活用できるかという観点で見ると、教師の視点ということも大事にしないといけないと感じている。
松永委員	保護者の方も道徳については知っていると思う。非常に難しく、深い部分がある。ただ教材だけを見て、感銘したということだけではなく、道徳自体を理解しないと判断できない。つまり、教師の視点でどう扱うかを重視した方がいいのではないかと思う。
小野田会長	駒澤委員さん、保護者の目線で考えるといかがでしょうか。
駒澤委員	光文書院のそれぞれの巻末の詩はいいと思った。ただ、それを６年間使い続けるのか、どこかで断ち切れてしまうかもしれないと思って見ていた。学研をはじめ、どの出版社もアイコンをうまく利用してい

	る。感情に関する部分やそれにまつわる気持ちについて、表現の仕方が今の時代に合っていると思いながら見ていた。松永委員さんがおっしゃったように、個人的に好きな話、自分の体験をもとに惹かれる話というのは、個々に差があると思っている。これからの時代やどのように教えていくかによって、先生にとって教えやすい教科書を選択すべきであると思っている。個人的な主観を入れるのは、よくないと皆さんの話を聞いていて思った。
小野田会長	全体を通じて、意見はあるか。
遠藤委員	教科書はこんなにも素晴らしいと再確認でき、私自身の学びにもなった。自分たちの子供の頃と比べるのはお門違いかもしれないが、素晴らしい教材で子供たちが学べることに感謝している。各出版社の教科書に対する思いが伝わってきて、とてもいい時間をいただいた。
秋本委員	以前は教科書の大きさや重さも採択の中で話題に出たが、今は教科書を必要に応じて学校に置いておくということもあるので、その点では、内容に集中できた。
小野田会長	以上で協議を終了する。ここで休憩に入る。休憩後の選定については、採択協議会規約第１０条により非公開となるので、傍聴者は退席願う。
	【休憩】
	【選定】非公開
	【選定結果の発表・確認】
小野田会長	これで、選定協議を終了とする。次に、事務連絡に移る。事務局より連絡願う。
辻本指導主事	【事務連絡】 選定結果の通知を本日以降、各委員会宛送付する。各市の採択結果等の情報公開につきましては、両市同時にホームページで公開とし、各市の情報公開条例に基づいて対応願いたい。経費については、決算後、直ちに各市教育委員会に会計報告書を送付する。 質問、意見はあるか。
各委員	（質問、意見なし）
清水学校教育課長	【閉会】

会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和５年 5 月 20 日

署名 小野田 誠

署名 秋本 文子

署名 遠藤 康江